

## 平成 20 年度本委員会の活動報告

本委員会の活動に関し、本日までにとりまとめた内容につき、下記のようにご報告申し上げます。

### 平成 20 年度本委員会委員

- 委員長 別所 正美 (埼玉医科大学教授～内科学)
- 委員 阿部 正文 (福島県立医科大学医学部長～病理学)
- 委員 持田 智 (埼玉医科大学教授～内科学)
- 委員 黒岩 義之 (横浜市立大学医学部教授～内科学)
- 委員 水谷 修紀 (東京医科歯科大学医学部教授～小児科学)
- 委員 岩本 俊彦 (東京医科大学病院長～老年病学)
- 委員 大原 義郎 (金沢医科大学医学部長～生体感染防御学)
- 委員 花房 俊昭 (大阪医科大学附属病院病院長～内科学)
- 委員 松本 俊夫 (徳島大学医学部長～内科学)
- 委員 前川 剛志 (山口大学医学部長～救急集中治療学)
- 委員 池ノ上 克 (宮崎大学医学部長～産婦人科学)

### 本年度の活動方針

平成 20 年 1 月 23 日に委員会を開催し、平成 20 年度の活動方針を協議した。第 102 回医師国家試験(国試)においても学生が問題を持ち帰ることが可能であることを踏まえて、活動方針を以下のように決定した。受験生を対象に、第 102 回国試の実施状況、試験問題の評価、大学での学習、および受験環境に関するアンケート調査を実施する。大学の担当教官を対象に、第 102 回国試および関連事項に関するアンケート調査を実施する。出題された試験問題が国試として適当か否かの評価を実施する。以上の結果をとりまとめ、報告書および要望書を作成し、本会議議長に報告するとともに関係各機関に提出する。なお、の大学教員に対するアンケートはすべての大学にお願いするが、とについては、本委員会委員の所属する大学を中心をお願いすることとした。アンケートの内容は、継続性を持たせるために昨年度と同様の質問を基本としたが、一部は昨年度までの調査で明らかとなった問題点に関する質問を追加した。

### 受験生に対するアンケート調査

**対象：**以下の 9 つの大学医学部・医科大学(私立 4 校、公立 2 校、国立 3 校)の卒業生 797 名を対象とした：埼玉医科大学、北里大学、金沢医科大学、大阪医科大学、福島県立医科大学、横浜市立大学、東京医科歯科大学、山口大学、宮崎大学。なお、北里大学、金沢医科大学、大阪医科大学、福島県立医科大学のアンケート調査については、平成 19 年度の本委員会委員である相澤好治先生、高

島茂樹先生、竹中洋先生、菊地臣一先生にご協力いただいた。

**調査時期:**第 102 回医師国家試験が実施された直後の平成 20 年 2 月末に調査用紙(資料 1)を配布し、国試の合否が発表される前に回収した。

**回収率:**対象数 797 名に対して回収数は 661 で、回収率は全体としては 82.9%であった。(昨年度は  $698/973 = 71.7\%$ )。私立大学 4 校の回収率は  $343/372 = 92.2\%$ 、公立大学 2 校は  $122/139 = 87.8\%$ 、国立大学 3 校は  $196/286 = 68.5\%$ であった。

**調査結果:**アンケートの調査用紙を資料 1 に示す。表 1 は、各大学の回答状況を一覧にしたものである。アンケート中コメントを要求した項目は 9 カ所あるが、コメントの内容をまとめたのが表 2 ~ 表 5 である。表 6 は、欄外に書かれていたコメントを収載したものである。コメントに関する過去 6 回のアンケートの結果との総括的な比較は表 7 に示した。

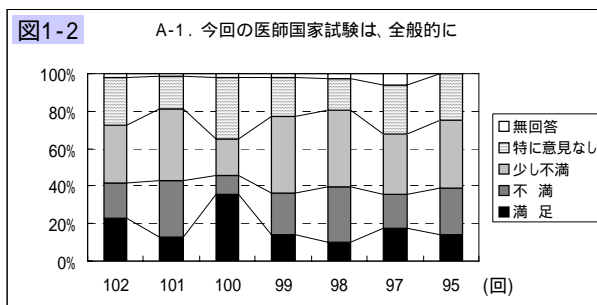
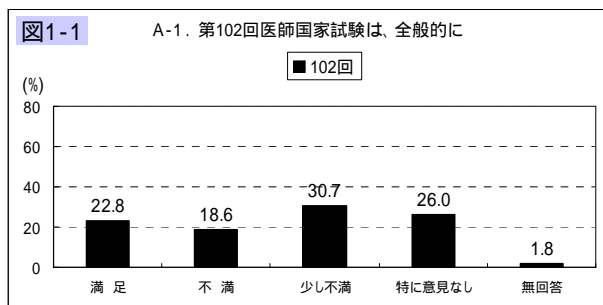
なお、試験会場は以下のとおりであった。埼玉医科大学、北里大学、東京医科歯科大学は大正大学(東京都)、横浜市立大学は大正大学と明治学院大学(東京都)、金沢医科大学は北陸大学(石川県)、大阪医科大学は大阪産業大学(大阪府)、福島県立医科大学はサンフェスタ卸町会館(宮城県)、山口大学は広島国際大学国際教育センター(広島県)、宮崎大学は福岡大学(福岡県)。

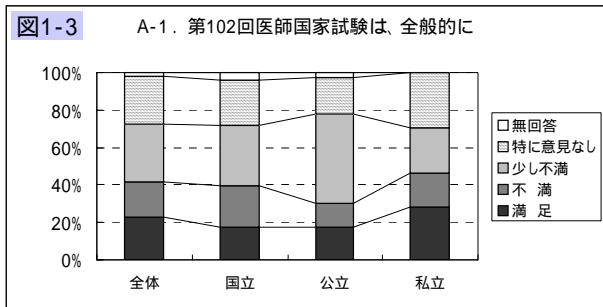
### A . 第 102 回国試についての全般的な感想

図 1-1 に示すように「満足」と回答した学生の割合は 22.8%であり、受験生へのアンケート調査を開始した第 95 回国試から今回の国試まで過去 7 回の調査の中で、第 100 回国試に次いで 2 番目に高い数字であった。一方、「不満」、「少し不満」と回答した学生の割合は、49.3%で昨年より約 20%減少した。すなわち、学生の感覚として第 102 回国試は、比較的満足度の高い試験であったようだ。なお、国立、公立、私立の別でみると、私立大学の学生で満足度が高い傾向がみられた。

「不満」、「少し不満」と答えた学生のコメントを表 2 に示す。試験全般に関する設問 A に対して、良好とのコメントは 3 件、批判的なコメントは 317 件であった。昨年は、前者が 0 件、後者が 497 件であったことを考えると、コメント数からみても今回の国試は昨年度よりも満足度の高いものであったことがうかがえる。また、批判的なコメントの半数近くが、出題形式およびこれについての情報不足に関するものであり、残りは難易度に関するもの、必修問題に関するものであった。

従来为国試では別々に出題されていた一般問題と臨床問題が、今回の国試では同時に混合して出題されており、コメントからは学生の戸惑った様子がうかがえる。また、学生にとって最も神経質になる必修問題が 3 日間に分散され、毎日出題された。このことは学生にとって精神的にも相当な負担になったようである。更に、3 日目の試験が時間的に最も長く、学生には体力的にもきつかったようだ。

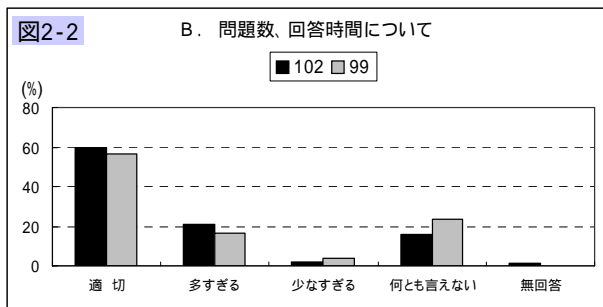
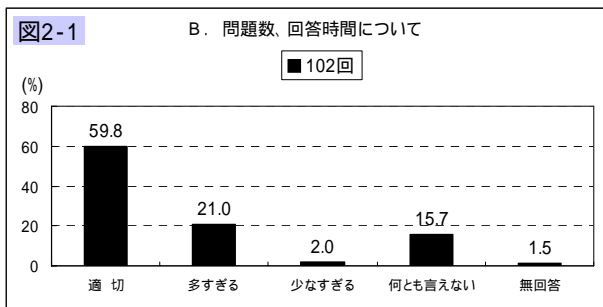




学生のコメントにもあるように、国試の時間割が公表されるようになったことは評価できる。さらに踏み込んで、問題の種別や出題方法についても、従来と異なり変更が有る場合には、事前に公表していただいた方が良いのではなかろうか。学生が試験形式や回答の仕方で混乱して得点できない、というのではなく、問題の中身で実力が試されるような試験であるようご配慮をいただきたい。

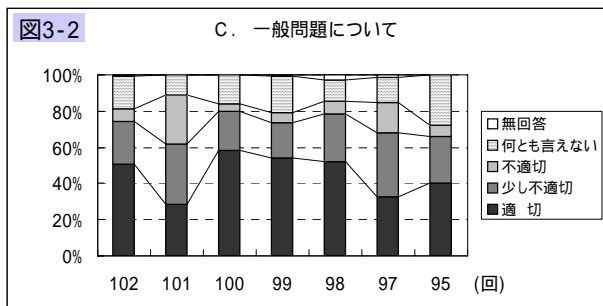
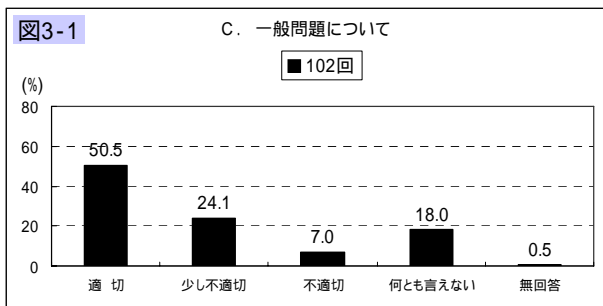
**B. 問題数、回答時間について**

「適切」と回答した学生は 59.8% (図 2-1) であり、第 99 回国試の調査とほぼ同様の結果であった(図 2-2)。



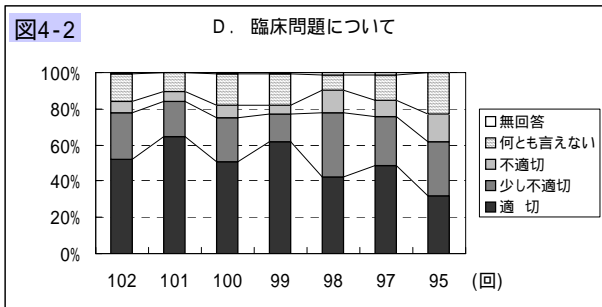
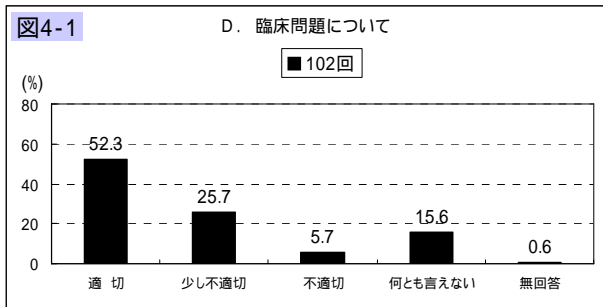
**C. 一般問題について**

「適切」と回答した学生は 50.5% (図 3-1) であり、昨年に比べ 22%上昇した(図 3-2)。



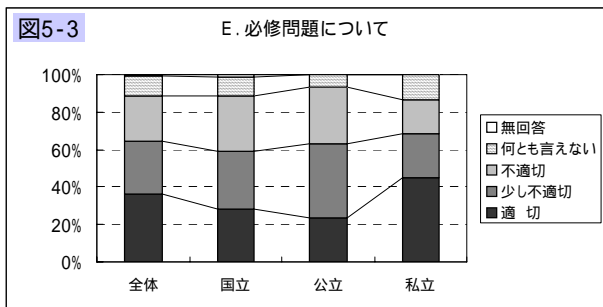
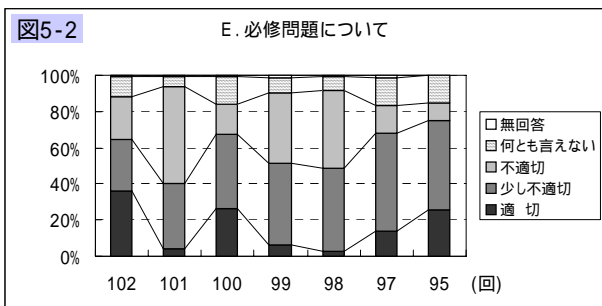
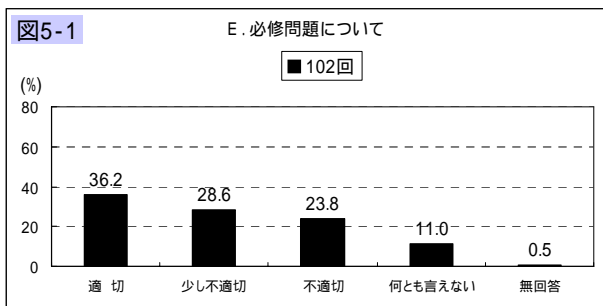
**D. 臨床問題について**

「適切」と回答した学生は 52.3% (図 4-1) であり、昨年に比べ 12.5%低下した。



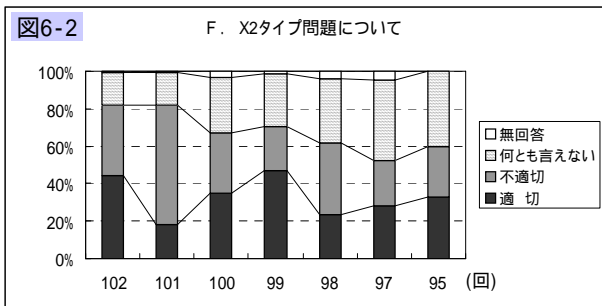
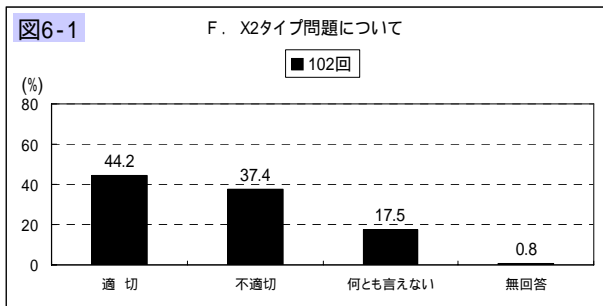
E. 必修問題について

「適切」と回答した学生は 36.2% (図 5-1) で、アンケート調査を初めて以来、最高の数字を示した(図 5-2)。特に、私立大学の学生に「適切」と回答した者の割合が高かった(図 5-3)。



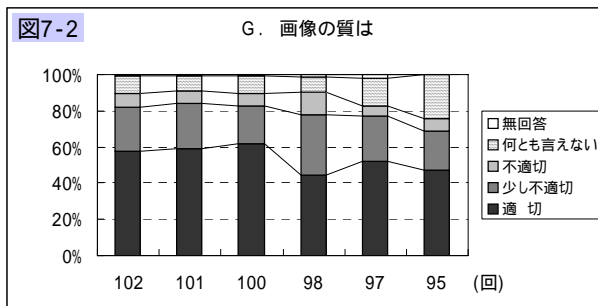
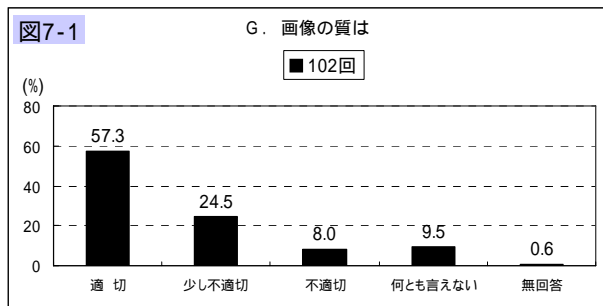
F. X2 タイプ問題について

「適切」と回答した学生は 44.2% (図 6-1) で、第 100 回国試に次ぐ高い数字であった(図 6-2)。



G. 画像の質は

「適切」と回答した学生は 57.3% (図 7-1) で、一昨年以来ほぼ同程度の数字が続いている(図 7-2)。



### H. 問題の種類、出題形式、画像などについての意見

問題の種類、出題形式、画像などに関して自由な意見を学生に書いてもらった。表 3 に示すように良好なコメントは 29 件あったが、そのうちの 17 件は一般問題と臨床問題が混ざって出題されたことをポジティブに捉えている意見であった。一方、批判的なコメントは 129 件あり、問題の質・難易度に関するもの、必修問題に関するもの、画像に関するもの、出題形式に関するものが目立った。一般問題と臨床問題が混ざって出題されたことに批判的コメント述べている学生も少なくなく、この出題形式の良否は学生にとって意見の分かれるものようだ。

### I. 各科の配分について

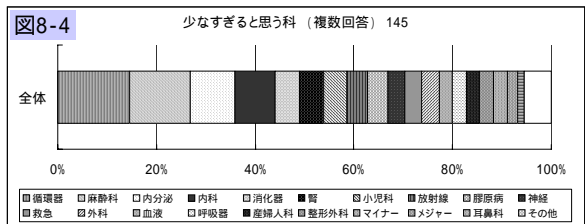
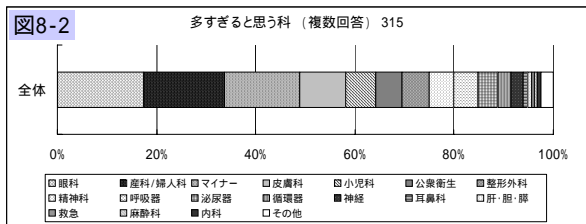
今回も昨年までと同様に、多過ぎると思う科、少な過ぎると思う科について具体名を答えてもらった。その結果、「多過ぎる科」について 661 名中 304 人(46.0%)から回答が寄せられた。このうち、具体的な科名は 315 科があげられていた。最も多かった科名は眼科で、産婦人科、マイナー科、皮膚科と続いた(図 8-1,8-2)。一方、「少な過ぎる科」については、195 人(29.5%)から回答が寄せられた。このうち、具体的な科名は、145 科があげられていた。最も多かったのは循環器で、麻酔科、内分泌と続いた(図 8-3,8-4)。まとめると、学生は眼科の問題数が多く、循環器の問題数が少なく出題されたと感じたようである。

図 8-1 【多過ぎると思う科】

	国立a	国立b	国立c	公立d	公立e	私立f	私立g	私立h	私立i	全体
回答人数	18	31	39	30	26	29	16	36	22	247
回答率(回答人数/回人数)	58.1%	33.0%	54.9%	42.9%	50.0%	37.2%	18.6%	42.9%	23.2%	37.4%
多過ぎると思う科(複数回答あり)										
眼 科	6	3	9	4	16	8	1	3	5	55
産 婦 人 科	5	4	13	3	5	9	5	4	3	51
マ イ ナ ー 科	3	3	9	11	3	1		10	8	48
皮 膚 科	3	3	10		4	5	1	2	1	29
小 児 科	1	2	2	1	1	5	1	6		19
公 衆 衛 生 科	2	3			1	1	4	3	3	17
公 衆 衛 生 科	1	1	3	4	3	4			1	17
精 神 科	1		2	6			4	2	1	16
呼 吸 器 科		6	2	1		3	1	2		15
泌 尿 器 科	1		2	5		2		3		13
循 環 器 科			3			2	1	2		8
神 経 科		4	1	1				2		8
外 科								2		2
耳 鼻 科			1	1				1		3
肝 胆 膵 科						1			1	2
救 急 科						1		1		2
麻 酔 科		1						1		2
内 科						1		1		2
腫 瘍 科			1							2
消 化 器 科								2		2
腎 臓 科								1		1
小 児 科								1		1
放 射 線 科								2		2
腫 瘍 科								1		1
神 経 科								2		2
救 急 科								1		1
数 学								1		1
外 科								2		2
急 救 科								1		1
外 科								2		2
血 液 器 科								4		4
呼 吸 器 科								1	1	2
産 婦 人 科			1					2		3
整 形 外 科								2	1	3
産 婦 人 科								2		2
マ イ ナ ー 科		1						3		4
メ ジ ャ ン 科								2		2
メ ジ ャ ン 科								1		1
耳 鼻 科								1		1
眼 科								1		1
皮 膚 科								1		1
感 染 科								1		1
内 科								1		1
脳 科								1		1
計 算 機 科								1		1
統 計 学								1		1
一 般 論								1		1
合 計	25	31	60	38	33	43	18	43	24	315
適切と回答した人数	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
特になし、と回答した人数	0	11	2	10	2	8	5	3	13	54

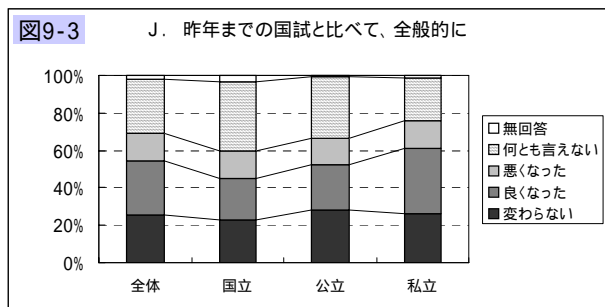
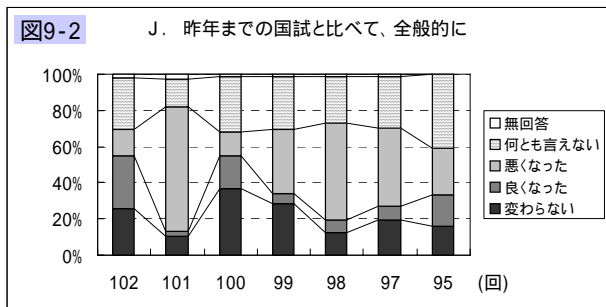
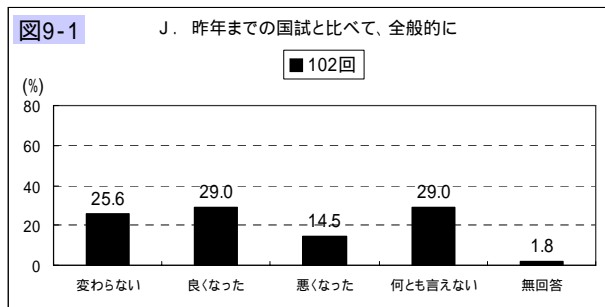
図 8-3 【少な過ぎると思う科】

	国立a	国立b	国立c	公立d	公立e	私立f	私立g	私立h	私立i	全体
回答人数	9	15	18	13	11	20	5	15	11	117
回答率(回答人数/回人数)	29.0%	16.0%	25.4%	18.6%	21.2%	25.6%	5.8%	17.9%	11.6%	17.7%
少な過ぎると思う科(複数回答あり)										
循 環 器 科	3	3	8	2	2	2		1	1	21
麻 酔 科	1	2	1			3	1	7	3	18
内 分 泌 科	1	1	3	3	1	4				13
内 科	2		1	1	4	2		1	1	12
消 化 器 科	1	2		1		1	2			7
腎 臓 科		3				1		1	1	7
小 児 科	1		2		1	2				7
放 射 線 科			2	1		1		1	1	6
腫 瘍 科			3			1		1	1	6
神 経 科		2				2	1			5
救 急 科		1	1	2				1		5
外 科								1		5
血 液 器 科					2	1		1		4
呼 吸 器 科						1	1	1	1	4
産 婦 人 科			1			2				4
整 形 外 科						2	1			4
産 婦 人 科						2		1		4
マ イ ナ ー 科		1				3				4
メ ジ ャ ン 科					2			1		3
メ ジ ャ ン 科								1		3
耳 鼻 科						1				2
眼 科						1				1
皮 膚 科						1				1
感 染 科						1				1
内 科						1				1
脳 科						1				1
計 算 機 科						1				1
統 計 学						1				1
一 般 論						1				1
合 計	10	17	26	16	16	26	6	15	13	145
適切と回答した人数	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
特になし、と回答した人数	2	13	5	15	4	12	7	3	14	75



**J. 昨年までの国家試験との比較**

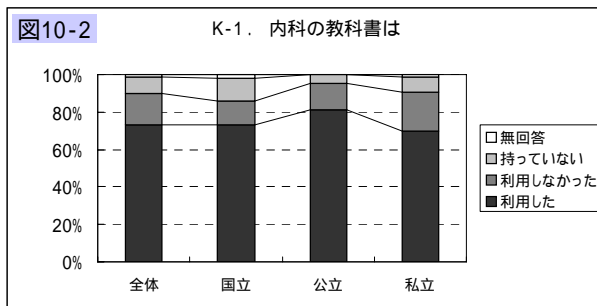
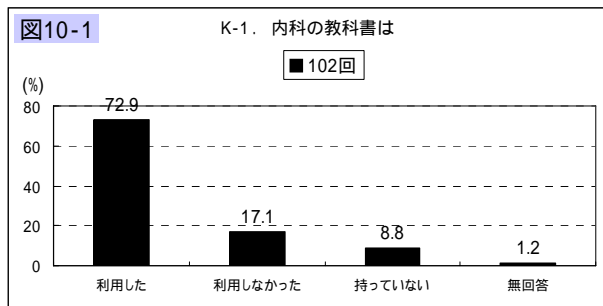
過去の国試に比べて今回の国試が「良くなった」と回答した学生の割合は 29.0% (図 9-1) と過去最高を記録した(図 9-2)。特に、私立大学で「良くなった」と回答した者の割合が高い傾向にあった(図 9-3)。反対に、「悪くなった」との回答は 14.5%と第 100 回国試とほぼ同程度の低い数字であった。第 98 回国試以降少しずつ増えてきていた「良くなった」との回答が、昨年は大きく落ち込んだが、今年は再び持ち直した。今回の国試で、「良くなった」との回答が今までになく多くなった理由については、一般問題、X2 問題、必修問題に対する評価が高まっていることから、これらの問題で質の高い良問が多く出された、のではないかと推測される。



**K. 大学での学習について**

**K 1. 内科の教科書は**

昨年度と同様に、大学での学習の状況、および大学での学習と国試との関連について学生側から見た意見を聞くことにした。質問内容について委員会で検討したところ、1 委員から、最近の学生は教科書を持っていない学生が多いのではないかと、との問題提起があり、同じ感想を持つ委員も多かった。そこで、代表的な科目として内科を選び、内科の教科書について、持っているか、利用したか、などについて質問することとした。その結果、内科の教科書を「持っていて利用した」と回答した学生は 72.9%、「持っているが利用しなかった」と回答した学生は 17.1%で、約 9 割の学生が内科の教科書を持っているとの結果であった (図 10-1)。

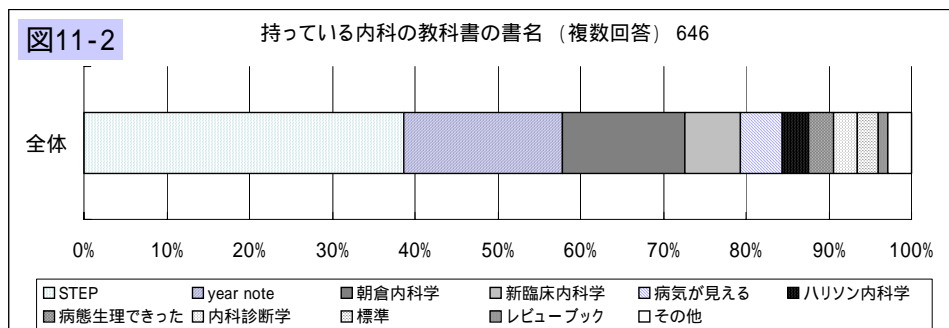


## K 2 . 持っている内科の教科書の書名は

内科の教科書を「持っていて利用した」、「持っているが利用しなかった」と答えた学生の中で、教科書名をあげてもらった。その結果、661 人中 458 人 (69.3%) からの回答が寄せられ、具体的な書名 646 冊があげられた。そのうち多かったのはSTEP(海馬書房)次いで year note( MEDICMEDIA )、内科学(朝倉書店)の順であった(図 11-1,11-2)。

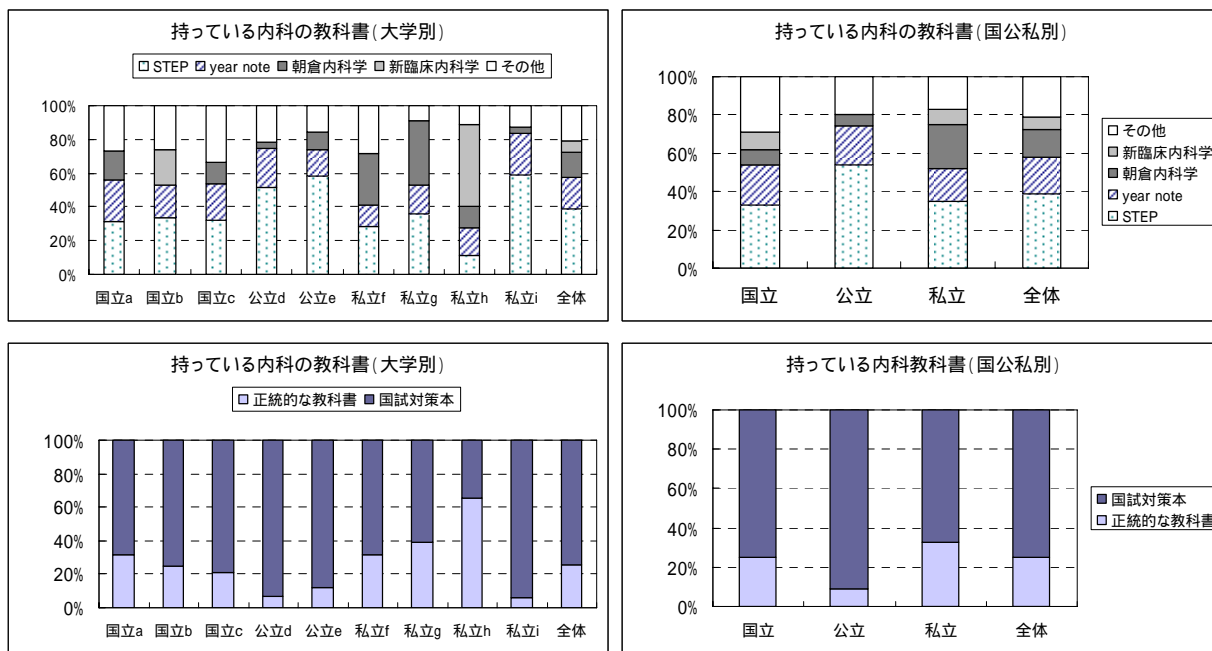
図 11-1

: 正統的な教科書													
	国立a	国立b	国立c	公立d	公立e	私立f	私立g	私立h	私立i	全体	国立3校	公立2校	私立4校
回答人数	27	59	42	61	38	67	51	49	64	458	128	99	231
回答率 (回答人数/回収人数)	87.1%	62.8%	59.2%	87.1%	73.1%	85.9%	59.3%	58.3%	67.4%	69.3%	65.3%	81.1%	67.3%
持っている内科の教科書の書名(複数回答あり)													
STEP	13	26	18	47	33	32	27	6	48	250	57	80	113
year note	10	15	12	21	9	14	13	9	20	123	37	30	56
朝倉内科学	7		7	3	6	34	29	7	3	96	14	9	73
新臨床内科学		16						27		43	16		27
病気が見える		7	3	7	5	6	4		1	33	10	12	11
ハリソン内科学	5	2	5	2	1	1	1	2	2	21	12	3	6
病態生理できた		1	2	5	1	9			1	19	3	6	10
内科診断学	2	7	4	2		1		2	1	19	13	2	4
標準			1	1	1	7	1	2	3	16	1	2	13
レビューブック (メジャー・マイナー)		2				5				7	2		5
クエスチョン・バンク	1			1	1					3	1	2	
よくわかる内科学			1						1	2	1		1
わかりやすい内科学	2									2	2		
大学の消化器・肝臓内科教科書						2				2			2
内科学 (文光堂)				1						1		1	
内科学書 (中山書店)	1									1	1		
100%シリーズ						1				1			1
Cecil Medicine		1								1	1		
ワシントンマニュアル									1	1			1
アトラス			1							1	1		
ドクターK				1						1		1	
ターゲット			1							1	1		
TECOMの教科書			1							1	1		
予備校のテキスト							1			1			1
合計	41	77	56	91	57	112	76	55	81	646	174	148	324



国立、公立、私立で分けて見てみると、国・公立ではSTEP、year note、内科学の順であるが、私立ではSTEP、内科学、year note の順であった。特に、公立2校ではSTEP を持っているという回答した学生が半数を越えていた。

やや乱暴な分け方ではあるが、図 11-1 で を付けた教科書を「正統的」、それ以外を「国試対策本」と仮に分けると、前者を持っている学生は全体の 2 割程度で、残りの 8 割の学生は後者を持っていた。特に、公立 2 校では「正統的」教科書を持つ学生は 1 割にも満たなかった。



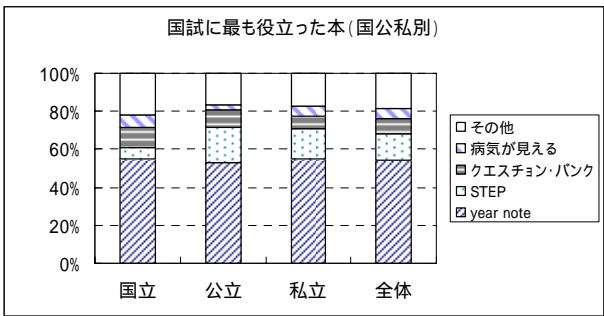
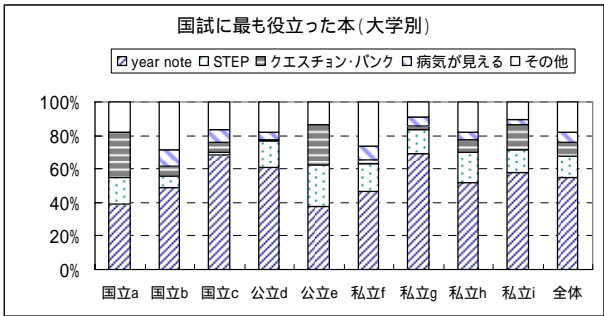
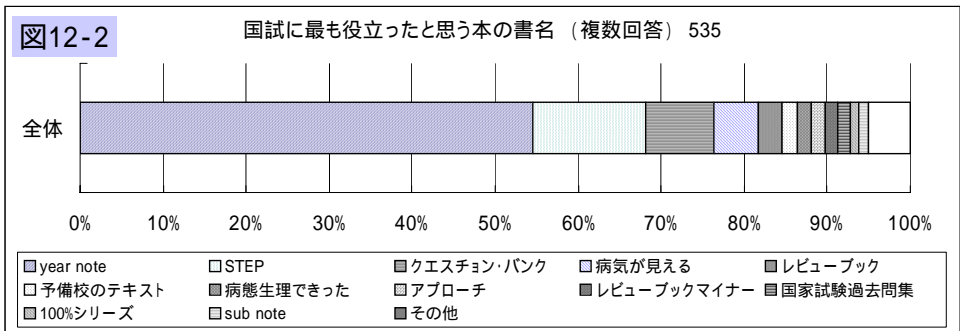
**K 3 . 持っている本の中で、国家試験に最も役立つと思う本の書名は**

持っている本の中で、国試に最も役立つと思う本について、書名をあげてもらった。その結果、661 人中 443 人 (67.0%) からの回答が寄せられ、具体的に 535 冊があげられた。最も多かった本は year note (MEDICMEDIA) で、STEP (海馬書房) クエスチョン・バンク (MEDICMEDIA) と続いた (図 12-1, 12-2)。 をつけた「正統的」教科書が役立つと答えた学生は極めて少数であった。

図 12-1

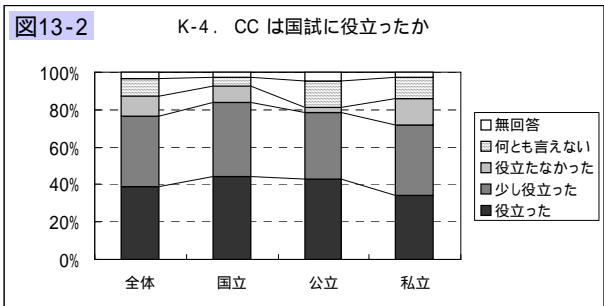
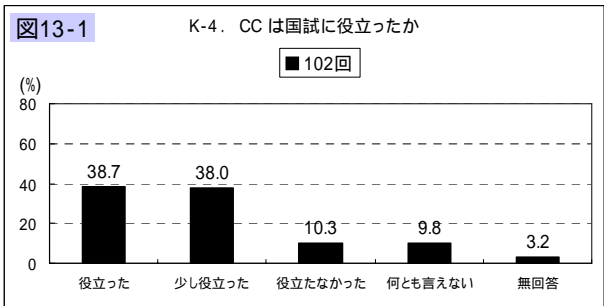
: 正統的な教科書													
	国立a	国立b	国立c	公立d	公立e	私立f	私立g	私立h	私立i	全体	国立3校	公立2校	私立4校
回答人数	29	54	54	57	35	61	48	49	56	443	137	92	214
回答率 (回答人数/回答人数)	93.5%	57.4%	76.1%	81.4%	67.3%	78.2%	55.8%	58.3%	58.9%	67.0%	69.9%	75.4%	62.4%
国試に最も役立つと思う本の書名 (複数回答あり)													
year note	13	31	45	44	14	39	38	34	34	292	89	58	145
STEP	5	4	1	11	9	14	8	12	8	72	10	20	42
クエスチョン・バンク	9	4	4	1	9	2	1	5	9	44	17	10	17
病気が見える		6	5	3		7	3	3	2	29	11	3	15
レビューブック	1	4	2	1	1	4		2		15	7	2	6
予備校のテキスト				2		3	2	2	1	10		2	8
病態生理でできた		1		1	2	3		1	1	9	1	3	5
アプローチ		5				2			2	9	5		4
レビューブックマイナー			2	1		4		1		8	2	1	5
国家試験過去問集	3	1	2			1			1	8	6		2
100%シリーズ		2			1	1		2		6	2	1	3
sub note			2	1			2	1		6	2	1	3
朝倉内科学	1			1		2				4	1	1	2
Dr.K		1	1	2						4	2	2	
TECOMターゲット			1	2						3	1	2	
新臨床内科学		1						2		3	1		2
内科診断学		2								2	2		
ハリソン内科学				1				1		2		1	1
year note ATRAS		1	1							2	2		
ファイナルチェック・オールインワン							1		1	2			2
公衆衛生アラーム						1				1			1
内科学書 (中山書店)	1									1	1		
皮膚科100問のススメ					1					1		1	
Kokutai						1				1			1
みとまのテキスト				1						1		1	
合計	33	63	66	72	37	84	55	66	59	535	162	109	264





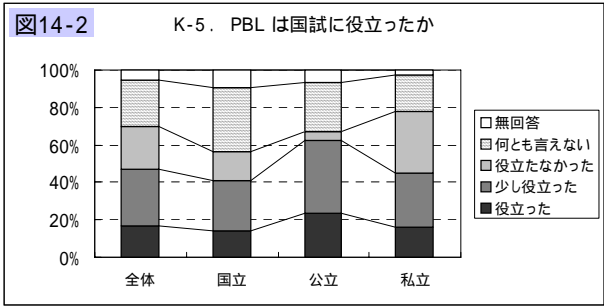
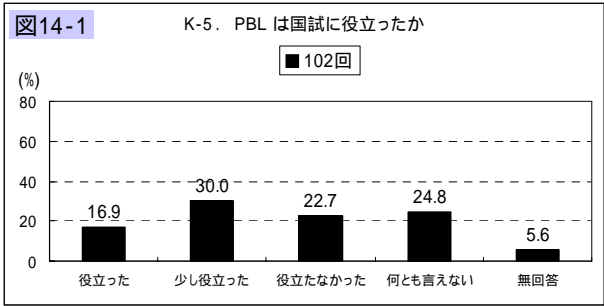
**K 4 . クリニカルクラークシップは国家試験に役立ちましたか**

クリニカルクラークシップは国試に「役立つ」と回答した学生は 38.7%で、「少し役立つ」と回答した学生は 38.0%であり、両者を併せると 76.7%であった (図 13-1)。



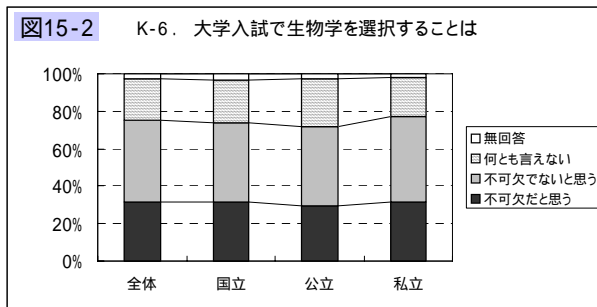
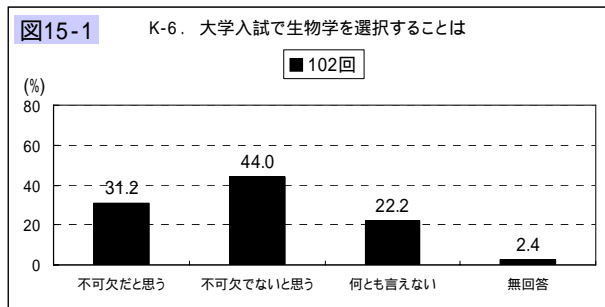
**K 5 . PBL は国家試験に役立ちましたか**

PBL は国試に「役立つ」と回答した学生は 16.9%で、「少し役立つ」と回答した学生は 30.0%であり、両者を併せると 46.9%であった (図 14-1)。



**K 6 . 大学での医学の学習に、大学入試で生物学を選択することは**

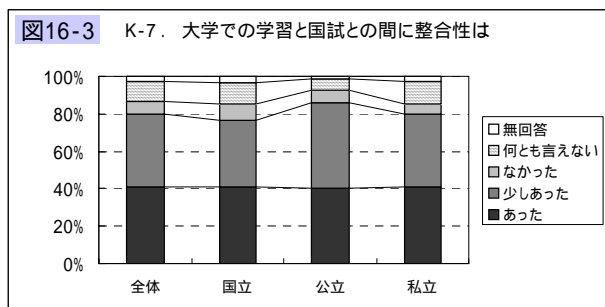
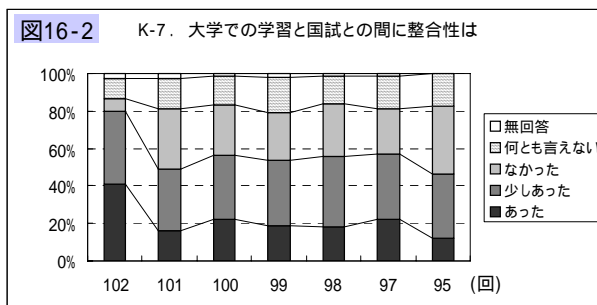
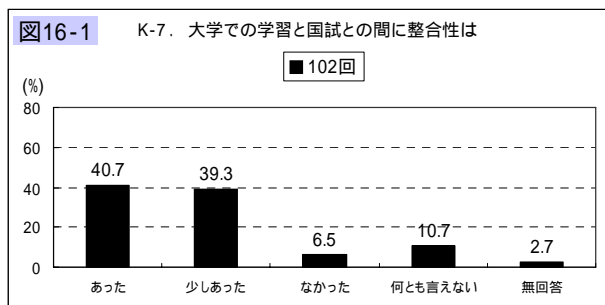
「不可欠でないと思う」と回答した学生は 44%で、「不可欠だと思う」と回答した学生 31.2%を上回った(図 15-1)。これは、国立、公立、私立で同様の結果であった(図 15-2)。



### K 7 . 大学で学習した医学と医師国家試験との間に整合性はありましたか

整合性が「あった」と回答した学生は 40.7%、「少しあった」と回答した学生は 39.3%で、両者を併せると 80%であり(図 16-1) これは国立、公立、私立で同じ傾向であった(図 16-3)。整合性が「あった」および「少しあった」と回答した学生の割合は、今までの調査の中では最も高い数字であった(図 16-2)。つまり、今回の国試は学生にとっては大学での学習内容とよく合っていると感じられるものであったようだ。今回の国試が満足度が高く(設問 A)、昨年までの国試と比べて良くなった(設問 J)、と学生が感じた理由の一つとして、大学での学習内容との整合性があったと感じられた点をあげることができるかもしれない。

整合性が「少しあった」とよび「なかった」と答えた学生のコメントを表 4 に示す。整合性があったというコメントは 10 件、整合性がなかったというコメントは 94 件、特に整合性はなくてもよいというコメントは 14 件であった。

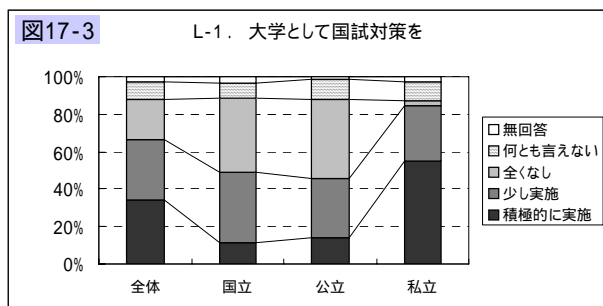
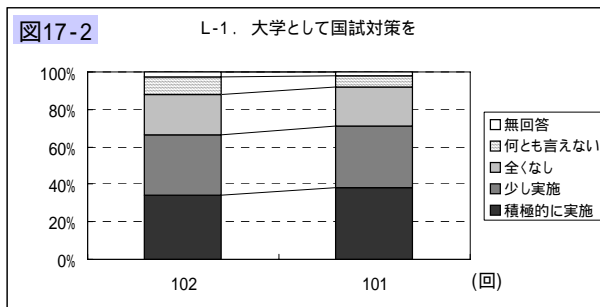
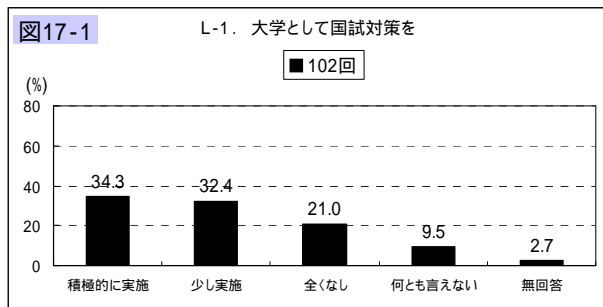


**L . あなたの大学の国試対策について**

いわゆる「国試対策」について、学生の目から見た大学の取り組み状況について質問した。

**L 1 . 大学として国試対策を**

大学として「積極的に実施」していると感じている学生はが 34.3%、「少し実施している」と感じている 学生は 32.4%で、両者を併せると 66.7%（図 17-1）であり、昨年に比べてやや減少した(図 17-2)。「積極的に実施」していると感じている学生は私立で特に目だった(図 17-3)。



**L 2 . 大学の国試対策が本格的に開始される時期は**

大学が国試対策を開始する時期に関して、「積極的に実施」、「少し実施」と回答した学生に答えてもらった。661 人中 383 人（57.9%）からの回答が寄せられた。その結果、6 年生 4 月が最も多く、次いで 6 年生 9 月、6 年生 1 月であった（図 18-1）。

大学別に見ると、私立の学生が最も早い時期から大学の国試対策が始まる、と感じていて、そのピークは 6 年生 4 月とその前後の時期にありそうである(図 18-2)。国立では最も高いピークは 6 年生 1 月であるが、6 年生 4 月あるいは 10 月にも小さなピークがある。公立では 6 年生 9 月および 10 月にピークがある。これらをまとめると、学生の目から見た大学の「国試対策」は、5 年生の 3 月および 6 年生の 4 月には多くの私立および国・公立の一部で開始され、6 年生の 9 月、10 月になると公立と一部の国立で、6 年生 1 月には多くの国立で開始されるようである。

図 18-1

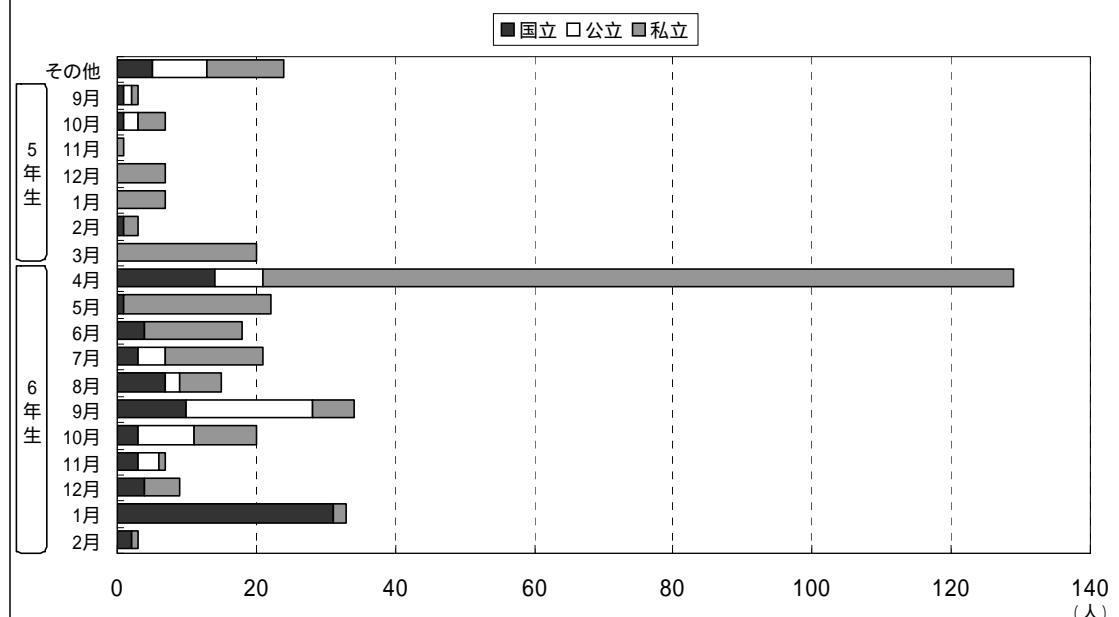
		国立a	国立b	国立c	公立d	公立e	私立f	私立g	私立h	私立i	全体
回答人数		2	40	48	49	4	68	58	56	58	383
回答率(回答人数/回収人数)		6.5%	42.6%	67.6%	70.0%	7.7%	87.2%	67.4%	66.7%	61.1%	57.9%
大学の国試対策が本格的に開始される時期											
2年生	6月								1		1
3年生	12月				1						1
	3月				1						1
4年生	4月			1			1				2
	8月		1								1
	12月							1			1
5年生	1月		1								1
	4月		2		5		1		1	1	10
	5月										0
	6月										0
	7月						3	1			4
	8月					1	1				2
	9月		1		1	1	1				3
	10月		1		1	1	2			2	7
	11月						1				1
	12月						3	1		3	7
	1月						6		1		7
	2月			1			2				3
	6年生	3月						17	2	1	
4月			5	9	7		29	31	32	16	129
5月			1					2	13	6	22
6月			4					8		6	18
7月			3			2		8	2	4	21
8月			6	1	2					6	15
9月			8	2	18			2	1	3	34
10月			3		8				1	8	20
11月			1	1	3					1	7
12月			1	2	1		4	1			9
1月							31			2	33
2月				2					1		3
合計			2	40	48	49	4	68	58	56	58

図 18-2

		国立3校	公立2校	私立4校	全体9校
回答人数		90	53	240	383
回答率(回答人数/回収人数)		45.9%	43.4%	70.0%	57.9%
大学の国試対策が本格的に開始される時期					
2年生	6月			1	1
3年生	12月		1		1
	3月		1		1
4年生	4月	1		1	2
	8月	1			1
	12月			1	1
	1月	1			1
5年生	4月	2	5	3	10
	5月				0
	6月				0
	7月			4	4
	8月		1	1	2
	9月	1	1	1	3
	10月	1	2	4	7
	11月			1	1
	12月			7	7
	1月			7	7
6年生	2月	1		2	3
	3月			20	20
	4月	14	7	108	129
	5月	1		21	22
	6月	4		14	18
	7月	3	4	14	21
	8月	7	2	6	15
	9月	10	18	6	34
	10月	3	8	9	20
	11月	3	3	1	7
12月	4		5	9	
1月	31		2	33	
2月	2		1	3	
合計		90	53	240	383

図18-3

L-2 大学の国試対策の開始時期 (回答人数 383人)

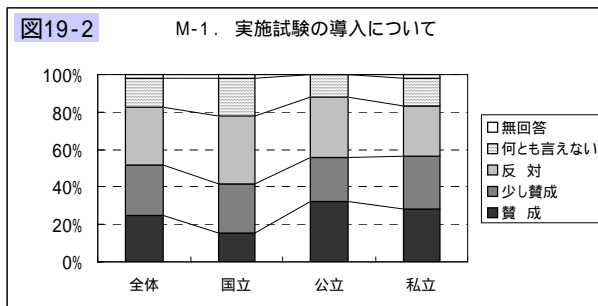
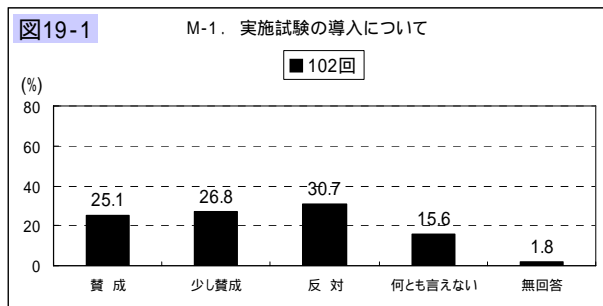


M. 国家試験のあり方について

国試のあり方について、学生の意見を聞いた。

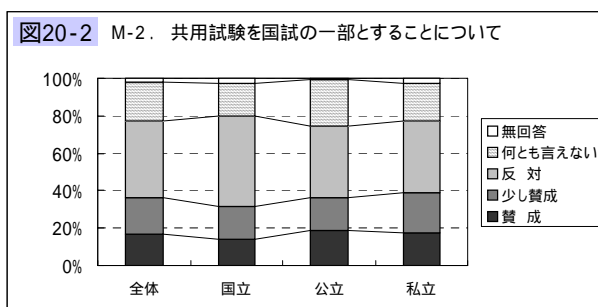
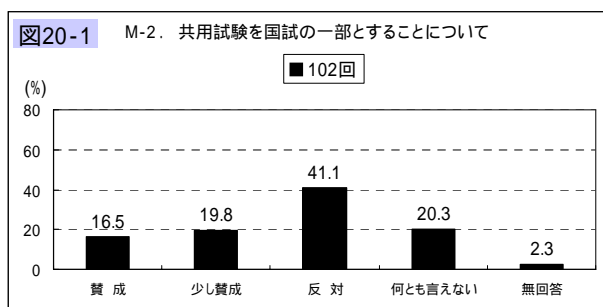
M 1. 実技試験 (例、advanced OSCE) の導入について

実技試験の導入については「賛成」と回答した学生が 25.1%、「少し賛成」と回答した学生が 26.8%で、併せると 51.9%であった (図 19-1)。大学別に見ると、公立と私立の方が国立よりも賛成意見が多かった(図 19-2)。



**M 2 . 共用試験を医師国家試験の一部とすることについて**

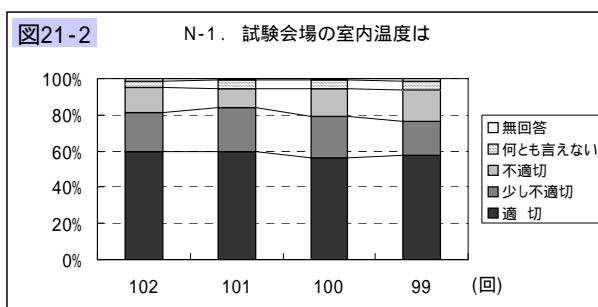
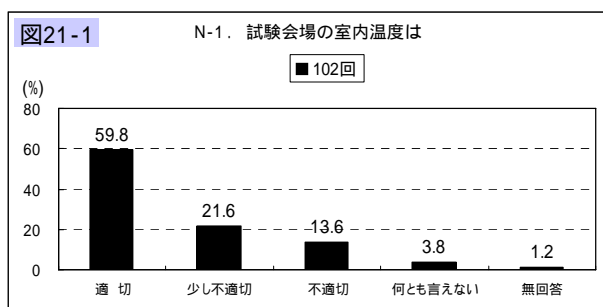
共用試験を国試の一部とすることについては「賛成」と回答した学生が 16.5%、「少し賛成」と回答した学生は 19.8%で、併せると 36.3%であった(図 20-1)。「反対」意見は国立が多かった(図 20-2)。



**N . あなたの試験の会場について**

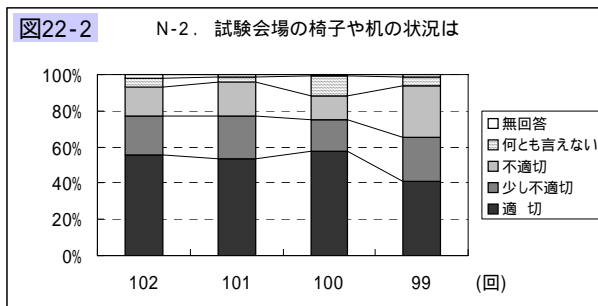
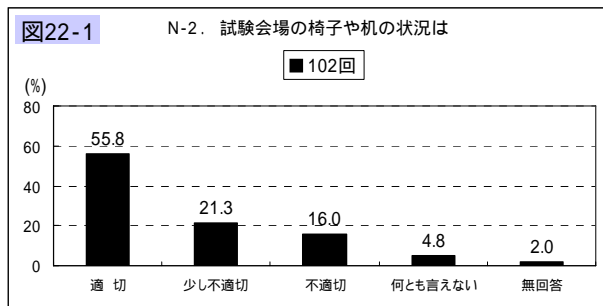
**N 1 . 試験会場の室内の温度は**

試験会場の環境が適切かどうかを調査する目的で室内の温度について質問した。「適切だった」と回答した学生は 59.8%であった(図 21-1)。昨年の調査とほぼ同じ結果だった(図 21-2)。



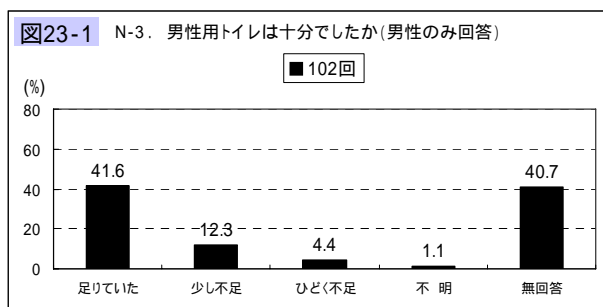
**N 2 . 試験会場の椅子や机の状況は**

「適切」と回答した学生は 55.8%であった(図 22-1)。この数字も昨年の調査と大きな差はなかった(図 22-2)。引き続き、受験生が試験に集中して、実力を十分発揮できるような環境を整えていただけるよう配慮願いたい。



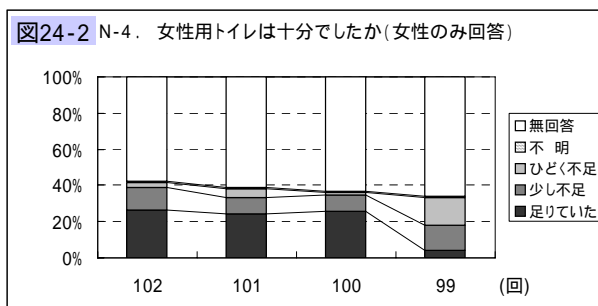
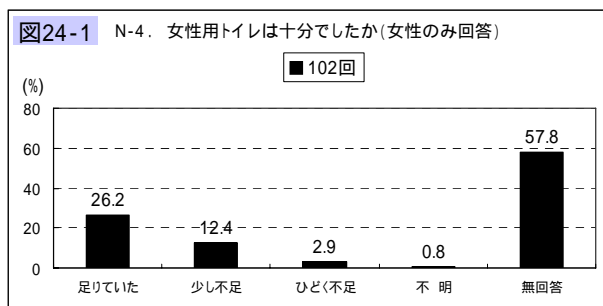
**N 3 . 男性の方のみ答えて下さい。男性用トイレは十分でしたか。**

「足りていた」との回答は 41.6%であった (図 23-1)。



**N 4 . 女性の方のみ答えてください。女性用トイレは十分でしたか。**

「足りていた」との回答は 26.2%であった (図 24-1)。



**O . 医師国家試験に関する意見**

アンケートの最後に、受験生に医師国家試験に関する自由な意見を書いてもらった。表 5 に示すように、良好なコメントは 8 件、批判的なコメントは 67 件であった。昨年の調査では、前者は 5 件、後者は 144 件であったが、今回は前者が増え、後者が減っていた。欄外に記されていたコメント (表 6) とあわせて、学生の生の声として受け取っていただきたい。

なお、過去 6 回の国試で学生から寄せられたコメントの総数を比較したのが表 7 である。今回の国試では、良好な評価コメントの数が過去の調査の中で最も多かった。一方、批判的なコメントの数は昨年のよりも減少していた。内容別に見ると、問題の質や難易度についての批判的コメントは今回は最も少なかったのに対して、出題の仕方に関する批判的コメントが増加していた。受験環境についてのコメントも少なかった。

## 学生に対するアンケート調査のまとめ

今回実施したアンケート調査の結果は以下のようにまとめることができる。

第 102 回国試について、「満足」と回答した学生の割合は 22.8%であり、過去 7 回の調査の中で 2 番目に高い数字であった。一方、「不満」、「少し不満」と回答した学生の割合は、49.3%で昨年より約 20%減少した。すなわち、学生の感覚として第 102 回国試は、比較的満足度の高い試験であった。

満足度の高かった理由としては、(1) 一般問題、X2 問題、必修問題で質の高い良問が多く出された点、(2) 試験問題と大学での学習内容との間に整合性があった点、(3) 受験環境が概ね良好だった点、などがあげられる。

「不満」、「少し不満」と回答した学生のコメントから、(1) 従来の国試では別々に出題されていた一般問題と臨床問題が、今回の国試では同時に混合して出題された点、(2) 必修問題が 3 日間に分散されて毎日出題された点、(3) 3 日目の試験が時間的に最も長かった点、などが学生には精神的にも体力的にもきつかった様子がよみとれる。時間割が公表されるようになったことは評価できるが、さらに踏み込んで、一般、臨床、必修の種別や出題方式についても、従来の方式と異なる場合には、事前に周知させていただいた方が良いのではなかろうか。学生が試験の形式や回答の仕方で混乱して得点できない、というのではなく、問題の中身で実力が試されるような試験であるようご配慮をいただきたい。

国試に関連して大学での学習について調査した結果、(1) 学生の約 9 割が内科の教科書を持っているが、その 8 割近くがいわゆる「国試対策本」である、(2) 国試に役立った本、としてあげてもらった本のほとんど全てが、「国試対策本」である、(3) 6 割以上の学生が、大学として国試対策をしている、と受け止めている、(4) 大学としての国試対策は 5 年生の年度末から 6 年生の各時期にかけて順次開始される、といった様子が見えてきた。